

## あかねだより

2024. 3月号

今年は黄砂がとんでもないくらい、飛来して来てると聞きました。皆さま、鼻がぐじゅぐじゅ、目が痒かったりしていませんか？それって黄砂のせいかもしれませんよ。お気をつけ下さい。

まだまだ、コロナやインフルエンザも侮れません。もう暫くマスクのお世話になるようです。

以前あかねだよりも書かせていただいたことがあります。あかねでは、いつでも面会が出来ますので、キーパーソンである娘さんが面会の度に認知症のお母さま（以下Aさんと呼びます。）の言葉を鵜呑みにしてしまい、Aさんの言葉に振り回されて、精神的に追い込まれてしまい、心が折れかけられたのです。そこで二人を少し切り離れた方が良かったらとの事で、Aさんは病院に入院されました。（本当に、Aさんと娘さんを切り離して良かったのか？私のエゴで良かったのではないか？Aさんの面倒を見切れないから入院を勧めたのじゃないかと思われていたのじゃないか？）などなど・・・どうするのが良かったのかと悩んでばかりでした。スタッフからは、あかねでもう少し、Aさんと一緒に過ごせば何かできたかも知れない・・・なんて言われたりしたので、余計に落ち込んだり、いや、娘さんの心の疲れを取り除く方が一番大事なこと。と思い直したりの日々でした。

あれからAさんと娘さんはどうなったのだろうか・・・と気にはなりつつ、時間ばかりが過ぎてしまい連絡もご無沙汰になっていました。

先日の事です。

突然、Aさんの娘さんから、今からあかねに来ます。と連絡がありました。私は、なんとなく落ち着かず、ソワソワ気分です。（娘さんと会ったら何と切り出そうか・・・）そればかり考えていました。何も思いつかないまま、娘さんと一年振りの再会でした。

娘さんの話によると、Aさんは、全く言われる内容はあかねにいた頃と変わらず、言いたいことばかり言っていらっしゃるそうです。心臓を悪くして、もう以前みたいな体ではない事、足も弱ってしまっていること。心臓を定期的に看ても

らわなきゃいけず、かと言って、これと言った治療もないので、医師の管理下のある施設に今度移った。との事でした。

そこで、いらなくなったタオル（以前、おしりふき用に頂いたことがありました。いつかあかねに持ってこようと思い貯めておいてたそうです）を持参して下さいました。

タオルより何より、あかねに来てくださったことに、感激です。私のソワソワは一気に吹き飛んでしまいました。

「母をあかねに入所させてから、初めてあかねさんにアドバイスを色々もらい、お世話になって優しくしてもらって、本当に私が優しくしてもらってもいいんだな。って感じました。

今までは、私が一人で母と父の面倒を見なきゃいけない。とずっと思っていました。今回いろんな方々に優しくしてもらって、本当に母と間をおいて良かったと思っています。」冷静に母と父を見ることが出来るようになりましたと涙ながらに話して下さいました。

「母は、全く変わらず相変わらず、好き勝手なことばかり言っていますが、あの時（あかねを退所して入院した時）病院はあかねの様に、母とは会えないと思い、会うことを諦めたら、自分の事を考えるようになって、気持ちが楽になりました。

今は、落ち着いて母と父の事を客観的に見れるようになりました。母は、変わりませんが、私が変わることで楽になりました。」と・・・

私が、思っていたことが実現して本当に良かった。あかねを退所してもらい、娘さんの心が少しでも楽になれば・・・と思い荒治療の様になったことを詫び、もう少しあかねでAさんと過ごしたかったとスタッフから非難轟轟だったこと。

しかし、なにはともあれ、娘さんの笑顔が見れたこと。こうして会いに来て下さった事、本当にうれしくて私の方が感謝していることを伝えました。

「あかね」と出会うまで、人に甘えちゃいけない。親の面倒は娘の私が見なきゃ・・・と必死で頑張ってきた娘さんではありますが、お一人で見るのには限界もあります。そんな時に、「助けて」と言えなかつたり、苦しい心の中を知ってもらいたいのにどこの誰に伝えたらいいのか解らなく本当に苦しかったと思います。今、他人に甘えることが出来るようになった娘さんの心の変化に本当に良かったと・・・私の心の荷が下りた気分でした。

娘さんは「又、古くなったタオルを持って来ます。」と言って笑顔で元気よくあかねを後にされました。

長い事介護の現場にいと、(ああ、もうだめだ。ヤメタイ。そうだ、後一か月やってだめならやめよう・・・)とか考えて強く決意するのに、一か月も立つ前に何か嬉しい事とかあると、(やっぱりこの仕事ってサイコー)って思ってやめようなんて気は忘れてしまう。

その繰り返しで今まで来たような気がします。

いま、介護の現場で働いている皆様、ご自宅で介護にあたっている方々、苦しいこともあるけれど、良いこともある。そう、自分に言い聞かせ、もう少し一緒に介護していきませんか？

巡り合った方々の、暖かいお声掛けで、困難を乗り越えるバネになって、また、一歩踏み出せます。

介護を取り巻く環境は非常に厳しい処ではありますが、数年たって、思いもかけずに、今回の様な感謝の気持ちをかけて頂けると、介護の仕事をしていて本当に良かったと思うのです。

私のつたない経験が「一燈照隅のたね」になれば幸いです